

記念講演「脱温暖化社会の構築に向けて」

WWF ジャパンの気候変動シニアオフィサーの鮎川ゆりかさんから、地球温暖化の現状とこれからの取り組みについて講演をしていただきました。

はじめに温暖化の影響と思われる例として、「ヒマラヤでは20年の間に多くの氷河が溶け、氷河湖は巨大化している、またアラスカやカナダ西部の冬の気温は過去50年の間に3-4℃上昇した」などの事実を紹介していただきました。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）では「気温上昇を2℃に抑えることでは不十分。気温上昇は1.5℃に抑え、その割合も10年に0.05℃以下の変化に抑えなければならない」という見解を出しています。2℃に抑えられない場合、気候変動のリスクが大きくなり、永久海氷がすべて消え、ホッキョクグマやアザラシは絶滅するかもしれないとのことでした。



鮎川ゆりかさん

WWF（世界自然保護基金 World Wide Fund for Nature）ジャパン、気候変動日本担当シニア・オフィサー

京都議定書発効は温暖化防止の第一歩に過ぎず、京都議定書後の活動も見据えることが必要です。講演の最後には、脱炭素社会に向けた取り組みとして、国内排出量取引制度の提案のほか、企業の取り組み事例や、エネルギーを自然エネルギーにシフトしていく取り組みの紹介がありました。

グローバルな視点からローカルな視点まで踏まえたお話で、「よく理解できた」と好評でした。

来場者にリメイクキャンドルプレゼント♪

MELONは2005年夏至（6/21）の『100万人のキャンドルナイト』への参加を呼びかけました。

100万人のキャンドルナイトは夏至と冬至の夜、2時間だけ電気を消してキャンドルに火を灯して過ごすと呼びかけている取り組みです。「100万人の広がりをもちますように」という願いを込めて名付けられ、全国各地に広がっています。

つどいでは、会場を訪れた皆さんに手作りのキャンドルをプレゼントし、参加を呼びかけました。プレゼントしたキャンドルは、結婚式場で不要となった使用済みのウェディングキャンドルをリユースして作成したものです。ボランティアさんの協力で作

成したりリメイクキャンドルは大変好評で、皆さんに喜んでいただきました。

それぞれが過ごしたキャンドルナイトを、写真に撮ってメールで送ってもらう取り組みも行いました。皆さんから送っていただいた写真とメッセージはMELONのWebサイトに掲載していますのでぜひご覧ください。

キャンドルナイトは冬至（12/22）にも行われます。MELONもその時期にイベントの開催を予定しています。詳細は次号に掲載させていただきますので、どうぞお楽しみに。



title : 初キャンドル
message : 電気を消すだけで涼しく感じました。キャンドルたちはよりゆっくりとした時の流れを演出してくれました。
PN.のろのろ

title : Return to innocent
message : 卵の殻と食用廃油で作ったろうそくのほのかな灯りとどこか懐かしい匂いが、遠い記憶を呼び覚ましてくれました。
PN.Kumiko Shimizu



-Special thanks-

吉本守一さん、佐々木芳さん、
小林結子さん、千葉広美さん、
渋谷めぐみさん、羽根田麻美さん